

理解度&釣れる度100%

丸

マルキュー

優良 餌本



# へらエサ パワーブック



## Contents

- 02 セット釣りの救世主「セットアップ」
- 04 持たせ系ウドンセットの浅ダナ釣り
- 06 抜き系ウドンセットの浅ダナ釣り
- 08 持たせ系ウドンセットのチョーチン釣り
- 10 抜き系ウドンセットのチョーチン釣り
- 12 持たせ系段差の底釣り
- 14 抜き系段差の底釣り
- 16 釣り方別仕掛け図 & 実寸大オモリ量
- 18 へらエサ性質表

2016  
冬 春  
号

HERA BAIT POWER BOOK

# セット釣りの救世主 「セットアップ」

## ウドンセットのバラケエサ キーワードは「粗め」「粒」「まとまり」

へら鮎のエサに対する反応の良し悪しは今に始まったことではありませんが、ここ数年のウドンセット釣りにおいて、「粒戦」「とろスイミー」「セットガン」の3種がブレイドされたバラケエサに対して強い興味を示していることは明らかです。その理由はこれらにだけ特殊な成分が含まれている訳ではありませんので、おそらく素材の持つ特性がへら鮎の摂餌を強烈に刺激しているものと推察されます。それは「セットガン」の粗めの麩材によるタナへの集魚力であり、「粒戦」の顆粒状ペレットによる強烈なアピール力であり、「とろスイミー」のまとまり感によるエサ持ちの良さであることは疑いようのない事実です。

さてここで重要なキーワードが出てきました。それは「粗め」「粒」「まとまり」の3つの言葉で、実はこれらが現代ウドンセット釣りのバラケのキモとなる重要なポイントであり、釣れるバラケに求められる要素として、これらの特徴が生かされていないとへら鮎は興味を示さず釣ることができないのです。ところが粗い粒状のバラケはまとまりにくく、誰にでも自在にコントロールができるシロモノではないという現実が、高い障壁となって我々アングラーをこぼむのです。

そこでコントロール性能をアップさせるために多種多様なブレンドが試されましたが、確かにまとまるタツ子にはなるのですが、ブレンド数が4つにも5つにも増え、さらにはまとまり感が強くなると必然的に粗い粒状感が失われてしまい、結果としてへら鮎の反応が弱まってしまふのです。つまり、粗い粒とまとまり感は相反するものであり、理想は粗い麩や粒をそのままタナに送り込めるコントロール性能が必要なのです。



セット釣りバラケの3種の神器ともいえる「セットガン」「粒戦」「とろスイミー」。ここに「セットアップ」を加えるだけで、コントロールしやすいエサに仕上がる。



標準仕様に仕

上げたエサを手にとると、見た目のザラザラボンボンとした感じからは想像もつかないほどのまとまり感に驚くはず。しかも「粒戦」を含んだエサにも関わらず大

変エサ付けがしやすく、実際に使ってみると大きさ・形状・圧加減で思い通りのタイミングで抜いたり持たせたりできるので、従来のブレンドパターンよりも簡単にア

タリを出すことができるでしょう。肝心のエサ作りは、セット釣りバラケの3種の神器ともいえる「セットガン」「粒戦」「どろスイミー」に水を加え、後から「セットアップ」



仕上がりはボンだが、実際に手にとってみると扱いやすいエサになっている。



・粒感を残しつつ、ハリ付けのしやすいエサに仕上がる!  
・タナでの「抜き」「持たせ」が自由自在!

セット釣り専用バラケエサ

バラケ度 調整可能  
量 50g



セットアップ  
SET UP  
15g x 20粒

き混ぜるだけで、たちどころに名手のタッチが手に入ります。しかも抜き系、持たせ系の作り替えは、水量と「セットアップ」の分量を变

えるだけのお手軽仕様。調整も抜きたいときはあらかじめ吸水させた「粒戦」を、しっかり持たせたいときは「セットアップ」をそのまま適量加えるだけ。このシンプルさが受け入れられ、発売以来セット釣りに悩める多くのアングラーに支持され人気沸騰! まさに「セットアップ」は、セット釣りの救世主とも言える新エサなのです。

まとまりにくいバラケエサをコントロールできる  
それが「セットアップ」

# 「ウドンセットの浅ダナ釣り」

## ポイントとはタナまで持たせたバラケを どのように開かせるか

持たせ系はバラケを上バ  
リに残した状態でアタリを  
待つ（出す）釣り方なので、  
バラケ（Ⅱ魅エサの塊）に興  
味を示し、これにアタックし  
てくるだけの活性がある時  
期に有効な釣り方です。ただ  
し、冬から春先にかけての  
活性が低い時期であっても、  
放流された新ベラや既存の  
旧ベラのなかでもコンディ  
ションが良く、エサを追うだ  
けの活性があるへら鮒が水  
面下1.2〜1.5m付近のタ  
ナに多く居着いているよう  
であれば、しっかりタナを作  
ることができてアタリも明  
確なこのアプローチが釣り  
やすいでしょう。

持たせ系の釣りで大切な  
ことは、なによりバラケをタ  
ナまで持たせてウキをナジ  
ませることですが、単に持  
たせるだけでは釣れません。  
ポイントでは持たせたバラケ

をどのように開かせるのか  
ということ。つまり水中での  
バラケ方のコントロールが  
重要なのです。

イメージとしては、まずバ  
ラケがナジミ切った同時  
に開き始め、下方へサラサ  
ラと雪のように降り注ぐ魅  
の粒子の帯のなかに、上方か  
らくわせエサが落下してき  
ます。すると拡散する魅の粒  
子に引き寄せられたへら鮒  
が徐々に魅の粒子の中心部  
に近づき、その際タイミング  
良くくわせエサが目の前に  
落ちてくれば、もしくはへ  
ら鮒が最も興味を示す濃度  
の粒子の帯の中にシンク口  
させることができれば、食  
い気のあるへら鮒は否応な  
くくわせエサを吸い込みま  
す。このとき、バラケの粒子  
の濃いところを意図的にく  
わせエサにシンク口させる  
ため、タイミングを見計らっ

て塊で抜く  
こともあり  
ますが、ウ  
キがナジミ  
切つてから  
であればそ  
れは持たせ  
系の範疇で  
あり、それ  
よりも早い  
タイミング  
であれば抜  
き系となり  
ます。

持たせ系ではナジミ切っ  
たバラケの位置よりも下の  
層に、たくさんのへら鮒を寄  
せることが必要です。その  
ためには集魚力に優れたペ  
レット、もしくはさなぎ粉を  
多く含んだ素材を中心にし  
たブレンドで、やや比重を持  
たせた縦バラケタイプのバ  
ラケに仕上げるのが肝心  
です。またへら鮒をくわせエ



チモトをしっかり  
モトさえると、  
押さえた部分は  
タナまで持つよ  
うになる。

サに誘導するためのタッチ  
の調整がしやすいものがお  
勧めです。

今回紹介しているバラケ  
には新エサ「セットアップ」  
がブレンドされていますが、  
持たせ系バラケの特徴を出  
すには、加える水の量を増や  
し「セットアップ」の割合を  
増やします。さらに水中の粒  
子濃度を一時的に濃くする  
ための塊抜きをするときは、

### ●おすすめブレンド

# 粒戦50cc+とろスイミー50cc+ セットガン100cc+水200cc+セット アップ200cc+パウダーベイトスーパーセット100cc



### ●作り方

「粒戦」、「とろスイミー」、「セットガン」に水を入れてかき混ぜ、しばらく放置。吸水したら「セットアップ」と「パウダーベイトスーパーセット」を入れて、大きくよくかき混ぜる。

### ●使い方のコツ

半分に分けて、打ち始めは基エサを打ってみる。手水と攪拌によりエサの持ち具合と、バラケの拡散範囲を調整。エサがまとまりすぎたときには、小分けした基エサを足して調整する。

多少強めにかき混ぜてまとまり感を増したものが適しています。

くわせエサに関しても、持たせ系のアプローチに適したものを使う必要がありますが、持たせ系だけでは釣りきれず、抜き系も織り交ぜないとアタリが続かないケースではその都度使い分けるか、または両方に合うものを選択する必要があります。ただし、明らかな持たせ系時合であれば、やや比重があつて大きめのくわせエサが適しています。

仕掛けのセッティングの特徴としては、抜き系に比べて浮力のあるウキを使うことと、バラケとくわせエサの位置関係(距離感)を適切にとるハリスの長さ(段差)が重要です。これが合わせきれないと、たとえたぐさんのへら鮎がタナに寄っていても極端にアタリが出にくくなりますので、少しずつじっくりセッティングを煮詰めることが肝心です。



# 「ウドンセットの浅ダナ釣り」

## 重要なのはバラケの質と量 そしてバラケを抜くタイミング

抜き系はバラケを上バリに残さず、完全に抜いた状態でアタリを待つ(出す)釣り方です。持たせ系でもバラケを抜いてアタリを出すこともありますが、抜き系とはそれより遥かに早いタイミングで抜いてしまうアプローチで、主に冬場の低活性期に活躍する釣り方です。

抜き系のメリットはタナ規定のある釣り場で、規定よりも上層からバラケさせることで、その付近に居るへら鮎をすべてターゲットにできることです。つまり持たせ系のアプローチでは釣ることが困難なタナに居るへら鮎のタナを下げ、くわせエサへと誘導できるのがメリットで、これによりバラケの芯(上バリ付近)まで接近してこない食い気の乏しいへら鮎までも釣ることが可能になるのです。

抜き系の釣りで重要なことはバラケの質と量、そしてそれを抜くタイミングです。質とはバラケの粒子感や比重のことで、水中で拡散したバラケの粒子が大きいのか小さいのか、また沈下する速度が速いのか遅いのかによってへら鮎の反応は異なります。量とはズバリ水中を漂う粒子の量であり、部分的な濃度と考えるのもいいかも知れませんが、上層に居るへら鮎をくわせエサに誘導するために必要な、興味を示す拡散量を探らねばなりません。そしてへら鮎が反応する質と量がある程度分かるところで、最後の仕上げとなるのが抜くタイミング。最も早いのが着水直後であり、最も遅いのはバラケがタナに届いた(ナジミきった瞬間ですが、この間のどこで抜けばアタリが出るのか

抜き系のバラケは、かたまり感を出さずに、粒子を降らせるようにする。



を探ることがキモなのです。持たせ系ではバラケが先にナジむので、上から降り注ぐ粒子の中にくわせエサが落ちていきますが、抜き系ではくわせエサが落下するほうが先なので、ナジんだくわせエサに後から麩の粒子が降り注ぐイメージを持つことが肝心です。

加え、先にタナに届いているくわせエサにへら鮎を誘導できるアピール力も不可欠です。さらに食いが渋くなると沈下して行く速度が速すぎると追いきれなくなってしまうため、ある程度タナ付近で滞留する粒子をバランスよくブレンドする必要があります。ちなみに新エサ「セットアップ」は持たせ系でも抜き系でもハイパフォーマンスが期待

### ●おすすめブレンド

# 粒戦100cc＋とろスイミー 50cc＋ セットガン100cc＋水200cc＋セット アップ200cc＋セット専用バラケ100cc



### ●作り方

「粒戦」、「とろスイミー」、「セットガン」に水を入れてかき混ぜる。吸水時間をおかずに「セットアップ」と「セット専用バラケ」を入れて、大きくよくかき混ぜる。

### ●使い方のコツ

半分に小分けし、打ち始めは手水を打ってしっとりさせて使う。上層からバラけだし、タナへ降らせるイメージ。エサの大きさに漂う粒子量、エサ付けの形でバラける範囲を調整する。

できるので、抜き系の場合  
は水の量と「セットアップ」  
の割合をやや抑え、微粒子素  
材と組み合わせることで抜き  
系に特化したバラケに仕  
上げるのが可能です。

くわせエサは持たせ系に  
比べて軽く小さなものが  
マッチします。これは水中で  
の漂い感を増すことで、バラ  
ケの粒子に同調したくわせ  
エサの存在を消し去り、近づ  
いてきたへら鮎に誤飲させ  
る狙いがあります。もちろん  
複数用意することを忘れて  
はいけません。

仕掛けのセッティング上  
の注意点としては、持たせ  
系に比べて浮力の小さなウ  
キを使うこと、それにマツ  
チした無駄のないハリスの  
長さを探り当てることです。  
とかくカラツンが出るとす  
ぐにハリスを短くしがちで  
すが、ただでさえアタリが少  
ない時期の釣り方なので、ア  
タリが出るセッティングを  
優先し、多少のカラツンには  
目を瞑る寛大さも必要です。

# 「ウドンセットのチョーチン釣り」

## バラケエサはタナで開くカタボソタッチが基本 くわせエサは軽め・小さめ

一般的にはバラケに対し強い反応を示す、夏場を中心としたへら鮎の活性が高い時期に有効な釣り方ですが、ここで紹介するのは冬場における低活性時の持たせ系ですので、そのコンセプトは大きく異なります。

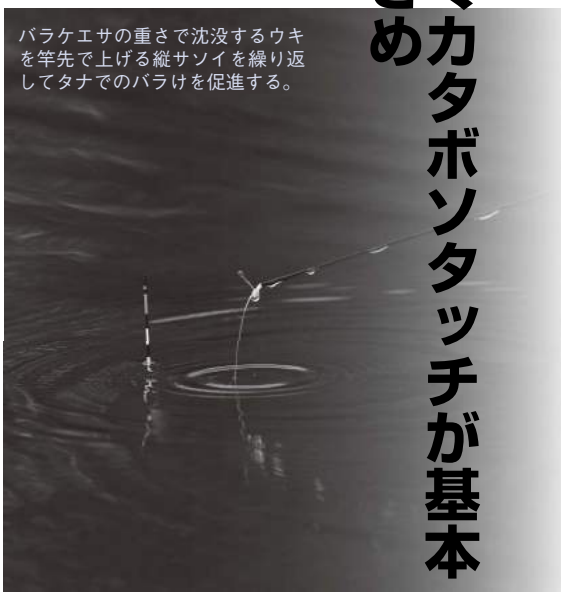
基本的には浅ダナと同じくバラケを上バりに残した状態でアタリを待ちますが、決定的に違うのはウキが沈没するくらいバラケを持たせ、縦サソイ（竿先を小刻みに上下させる動作）によってバラケを促進するとともに、くわせエサを動かすことで同調性やナチュラル感を演出する釣り方です。

同じ持たせ系でも浅ダナとチョーチンの決定的な違いは、浅ダナではバラケのタッチやエサ付けによってバラケの持たせ加減やバラケ方を調整しますが、チョー

チン釣りでは最終的な微調整の部分で同じ手法が取られることはあっても、基本的には絶対にハリから抜け落ちしないエサ付けを前提とします。その上でエサの重さによって沈没したウキを水面上まで出すために竿先を上げる縦サソイを行い、これを繰り返すことでバラケを促進しながらへら鮎をタナに寄せ、くわせエサへと導きます。

ポイントには縦サソイの強弱や緩急によってバラケの開き方に変化を加えることと、そうした釣り手の動きに対して狙い通りにバラけるボソタッチのバラケに仕上げることです。開きの悪いバラケでは狙い通りに粒子が拡散しませんし、芯持ちの悪いものでは数回の縦サソイで割れ落ち、抜け落ちてしまいます。良いバラケを

バラケエサの重さで沈没するウキを竿先で上げる縦サソイを繰り返してタナでのバラケを促進する。



使うと縦サソイによって拡散したバラケが下方にあるくわせエサに降り注ぎ、くわせエサの存在をカムフラージュしてくれると、粒子に引き寄せられたへら鮎が気づかぬうちにくわせエサを吸い込んでしまうという仕組みです。

このためバラケは開きの良いカタボソタッチが基本となり、余程のことがない限り持たせ系ではヤワネバタッチで決まることはありません。

ません。ただし、カタボソバラケはエサ付けしにくいのが欠点で、慣れないとアタリが出る前に縦サソイの途中で上バリから抜けてしまいます。これを繰り返しているタナに寄らないばかりか下ずりを起こしてしまう恐れがあるので注意が必要です。そこでブレンドは粗めの粒子をやや控えた中小粒子の素材をメインとした構成とし、締めエサに軽い微粒子タイプの素材を使うと、まと



### ●おすすめブレンド

# 粒戦100cc＋とろスイミー 50cc＋ 水150cc＋セットアップ 200cc＋ バラケマツハ 200cc



### ●作り方

「粒戦」、「とろスイミー」に水を注いで5～6分放置。完全に吸水させてから「セットアップ」と「バラケマツハ」を入れて、大きくかき混ぜ、ボソツとしたタッチに仕上げる。

### ●使い方のコツ

仕上がったエサを半分小分けにして、手水を打って使う。このとき練らずに大きくかき混ぜるよう調整するのがコツ。バラケ性が足りないときは、基エサを足してボソツ気を出す。

めやすくタナで理想的に開くバラケに仕上がります。

チョーチンウドンセット釣りにおける持たせ系のくわせエサは、浅ダナよりも軽め小さめが良い傾向です。これは縦サソイに同調させる狙いもありますし、なにより寄ったへら鮎に違和感を抱かせることなく無意識にくわせエサを吸い込ませるのに有効です。

仕掛けのポイントになるのは、縦サソイをしたあと、トップの入りガスムーズなムクトップのウキを使うことです。その際、エサ落ち目盛りをトップ中程よりも沈め気味に設定することが肝心で、これによってバラケが少なくなってしまうので、動きにナチュラル感が増します。またバラケとくわせエサの距離感も重要で、この釣り方では総じて下ハリスは長めになる傾向ですが、そのうえでアタリの出る下ハリスの長さを探り当てるのが肝心です。

# 「ウドンセットのチョーチン釣り」

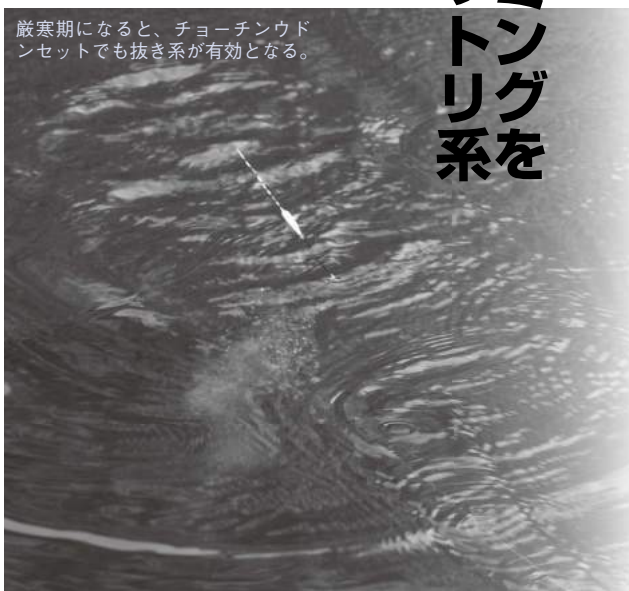
## バラケエサは抜くタイミングを コントロールできるシットリ系

持たせ系ではタナができて難くアタリが続かないときや、ハリスを伸ばした際に糸ズレばかりが増えるだけで一向に食いアタリが出ないという、いわゆる厳寒期の超食い渋り時に有効なアプローチです。このような状況下では長めのサオ(深いタナの方がタナを作りやすい)のようですが、厳寒期には季節風による流れなどで長竿が不利になる場面も多く、できるだけ短竿で考えた場合、持たせ系では振り向かなかったへら鮒も、抜き系で漂い感やチュラル感を増してやると思わず食いついてくること

が少なくないのです。抜き系のアプローチではタナが深くなる分、抜き方のバリエーションが増えるため、バラケのコントロールが難しくなる点を考慮しなければなりません。特にタナが

深いチョーチン釣りでは、へら鮒の食い気や活性にバラケの粒子感や比重をマッチさせることが大切です。目安としては活性が低く食い気がなくなるほど軽く細かな粒子の素材の割合を増してゆっくりバラケを沈下させ、動きの鈍いへら鮒でも反応できるようにします。またハリスを伸ばすことでへら鮒が滞留するタナよりも下の層(深い位置)にくわせエサが位置してしまふときには、ハリスを伸ばさずにバラケを抜く位置をさらに上方に修正し、ハリスを伸ばしたときと同じ濃度のバラケの拡散状態の中にくわせエサを位置させることも重要なポイントです。つまり抜く位置が水面に近ければ近いほど、早ければ早いほど長いハリスを使ったことと似た効果が得られることになり、食い

厳寒期になると、チョーチンウドンセットでも抜き系が有効となる。



が渋いほど早抜き効果が顕著に表れます。

加えて重要なのがサソイのテクニク。まずエサ落ち目盛りは沈め気味にするのがセオリーで、くわせエサだけ付いた状態でトップ先端1目盛りから3目盛りの間にするのがスタンダード。さらにバラケが抜けてくわせエサがナジミきったところから、小さな縦サソイを駆

使してアタリを引き出すのがポイントで、根気よく変化をつけながらサソイを入れることが肝心です。

チョーチン釣りでも、概ねふたつのタイプのバラケを使い分けますが、タナが深いことを考慮すると、水分量が少ないパサパサしたバラケでは抜き差しのコントロールもままならず、へら鮒は寄せられてもくわせエサに誘

### ●おすすめブレンド

# 粒戦100cc＋粒戦細粒50cc＋ 水150cc＋セットアップ200cc＋ セット専用バラケ200cc



### ●作り方

「粒戦」、「粒戦細粒」に水を注いで5～6分放置。水を吸水させてから「セットアップ」と「セット専用バラケ」を入れて、大きくかき混ぜ、サラッとしたタッチに仕上げる。

### ●使い方のコツ

打ち始めは手水を打って少し軟らかくして使う。「粒戦」100cc＋水70cc差し込むと一層水中で抜けやすくなる。エサ打ち時にエサが落ちてしまうときは「軽麩」をバラバラ振りかけて使用する。

導することが困難になります。そこでメインになるのはシットリ系のバラケ。それもエサ付けの際の形状や圧加減といった、まとめ方次第で自在に抜くタイミングをコントロールできるタッチが有効になります。8尺前後のチョーチン釣りであれば浅ダナのブレンドやタッチとそれほど違いませんが、中尺以上のタナの場合は、やや比重を加えた重めのバラケが効果的です。

くわせエサに関しては、わずかなへら鮎の動きでも煽られるくらい小さく軽いものがベターで、やはり食い気のレベルに合わせて複数のくわせエサを使い分けます。

仕掛けのポインントは縦サソイに適したセミロングタイプのムクトップウキを使うこと。さらにサソイの効果を増すための小さな下バリと、バラケの抜き方にマッチした長さで動きを干渉しない細めのハリスをアジャストすることが大切です。

# 持たせ系 「段差の底釣り」

## バラケのタッチはしっとり系のボソで 適度なまとまりがあるしっぴかり目が基本！

厳寒期の主役である段差の底釣り（以下…段底）では、持たせ系のアブローチが基本と言われています。ただし、アタリを待つ瞬間は必ず上バリからバラケが抜けていることが絶対条件です。

なぜなら段底はくわせエサだけが底に着いた状態なので、底で食わせるためには底から遠く離れたバラケにアタックされては困るからです。実際バラケが抜けたことをトップの目盛りで容易に判断できるので、ほぼ正確にくわせエサにアタっていることを識別することが可能です。また段底のシステムの特徴である底から離れたバラケは横方向へ粒子の拡散範囲が広がるため、エサが一点に集中するバランスの底釣りのバラケに比べて広範囲のへら鮎を寄せることができますし、さらにバラ

スの底釣りではターゲットにできなかった宙層のへら鮎にも強烈にバラケの存在をアピールすることができ、底に着いたくわせエサに誘導することができます。

段底ではアタリを出せるか否かは、バラケの拡散範囲のコントロールにかかっていると一言しても過言ではありません。水中をイメージする際、頼りになるのはウキの動きです。たとえばウキが立ち上がった直後のナジミに入る前に何らかの動きがウキに表れるとすれば、それは明らかにウワズリであるかと判断できます。バラケがナジミ切るまでの動きは少ないものの、ナジミ切ってからサワリが開始、そこから徐々にトップが返し、バラケが抜けて間もなくアタリが出るのが持たせ系の理想的な展開です。



このときの水中イメージは、バラケよりも下の層に寄った比較的食い気のあるへら鮎が、落下するバラケの粒子を上層もしくは横から吸いながら接近してきて、落下する粒子に誘われるようにタナを下げ、やがて底にある粒子に紛れたくわせエサを吸い込んだものと判断します。

基本的なタッチはしっとり系のボソタッチで、適度なまとまり感を持つ、しっぴかり

目のタッチです。エサ付けを丁寧に行うことで落下途中での開きを抑え、タナに届いてからバラケの表面がボロボロと剥がれるように開くようにすることが肝心です。

このときのウキの動きは一定のスピードで戻し、最後のハリのフトコロに残っているバラケの芯が崩れ落ちると、肝心の勝負目盛りが水面上に表れます。サワリはこのウキの戻り際に出るのが理想で、このときへら鮎はバ

### ●おすすめブレンド

**粒戦50cc+とろスイミー 50cc+  
セットガン100cc+水200cc+  
セットアップ400cc+底バラ200cc**



### ●作り方

「粒戦」、「とろスイミー」、「セットガン」に水を注いで5～6分放置。吸水後、「セットアップ」と「底バラ」を入れ、指を熊手状に開いて練らないように大きくかき混ぜる。最後にダマが残らないように下から掘り起こすようにして仕上げる。

### ●使い方のコツ

開きが早すぎると感じたときは手水と攪拌を加えることでややしっとりさせてまとまり感を出し、開くタイミングを遅らせるようにする。

ラケよりも下の層に溜まり始めているので、最後の仕上げはくわせエサへと誘導する(さらにタナを下げる)きつかけとなるバラケの開き方を探ることが肝心です。

持たせ系に適したくわせエサは、底に安定する比較的比重が重くサイズの大きなウドン系のくわせエサですが、底の状態によってはアタリが出にくくなる恐れがあるので、あらかじめ比重やサイズの異なる複数のくわせエサを用意しておくことが肝心です。

仕掛けのポイントはウキと下ハリスの長さです。基本的にはボディは細目でも浮力のあるパイプトップウキが適してきます。これはバラケの重さも支え、ウキの戻りも良いからです。下ハリスの長さは食いが渋くなるほど長くするのがセオリーですが、長くすると必然的にバラケの位置が底から離れますので、コントロールには細心の注意が必要です。



# 抜き系 「段差の底釣り」

## バラケの重さがかかった時点で 一気に抜けるような塊抜きが有効！

宙釣り同様ハリスを伸ばす(結果として段差を広げてしまう)と無駄な動きが増え、しまつときや、明らかにバラケを早抜きするとアタリが良く出るときには、意図的にバラケを塊で抜いてしまいう抜き系のアプローチが有効です。元々アタリが出るまでにはバラケを抜かなければならない段差の底釣り(以下:段底)ですが、早く抜くことでアタリが良く出ても釣れ続くようであれば、持たせ系で始めたとしても途中で切り替え、そこを直指すのは至極当然のことです。

宙釣りが少なくコンスタントに釣れ続くとかいった傾向がつかめたところで切り替えるのがセオリーです。また途中で抜くとアタリが出にくくなったときには速やかに持たせ系へとシフトチェンジし、再度組み立て直してから改めて抜き系に移行するといった柔軟な姿勢が必要です。

スタート直後から抜き系で始めることは、いきなりウワズリを招く恐れがあるのでいささかりスキーです。よってまずは持たせ系で打ち始め、徐々に抜くタイミングを早めるなかで明らかにアタリが良く出るとか、カラ

また抜き系とはいっても、宙釣りのような極端な早抜きは禁物です。もちろんそれでも釣れなくはありませんが、たとえ抜いても安定した時を持続させるには、早くてもオモリの位置を通り過ぎる辺りで、遅い場合にはナジミ切ると同時といった感じが、その幅は極めて狭いのが特徴です。よってこの幅の中でタイミング云々を語るのには土台無理な話で、通常はウキがナジむと同時に

くわせのウドンは「魚信」などの重さのあるタイプが適している。



返してくるように調整することを心掛け、万一早くなった場合でもウワズらせない配慮が必要です。

なお抜き方は持たせ系のようないわゆる抜き系ではなく、バラケの重さがかかった時点で一気に抜けるような塊抜きが有効です。ウキの動きとしてはナジミ始めたウキがエサ落ち目盛り付近を通過した直後に戻るのが最も早い抜き方で、一旦深くナ

ジンだ直後に間髪入れずに一気にウキが戻るのが最も遅い抜き方となります。

抜き系の基本タッチはしつとり系のヤワボンタッチで、持たせ系よりもまとまり感に欠けた、一見すると頼りない感じのバラケです。また、抜いた直後に一気に開かせずに、ある程度塊のまま水中を落下させた方がタナが安定しアタリが続く場合には、同じヤワボンでもネバリのあるタッチが適しています。

いずれのエサ付けもボウル内のエサを摘み取った後、指先で塊にまとめた時点で表面を滑らかにしたうえでハリを上から差し込み、チモトを押さえる力加減(強弱)とハリの位置(深淺)で抜くタイミングを計ります。

持たせ系と同様のコンセプトにより、複数のくわせエサを用意しておくことが肝心ですが、抜き系ではバラケの粒子が底に到達するのが早いので、軽く小さなタイプ

### ●おすすめブレンド

# 粒戦100cc＋粒戦細粒50cc＋ 水200cc＋セットアップ300cc＋ 段底200cc



### ●作り方

「粒戦」、「粒戦細粒」に水を注いで5～6分放置。吸水後、「セットアップ」と「段底」を入れ、指を熊手状に開いて練らないように大きくかき混ぜる。最後にダマが残らないように下から掘り起こすようにして仕上げる。

### ●使い方のコツ

半分程度別ボウルに取り分け、手水調整でタッチをコントロール。早く抜きたい場合は「粒戦」100ccに水を70cc吸水させたものを少しずつ加えていく。また、これを硬くするには「粒戦細粒」を適宜加える。

塊抜きのエサ付けはハリを上から刺し、形を整える。チモトは押さえない。

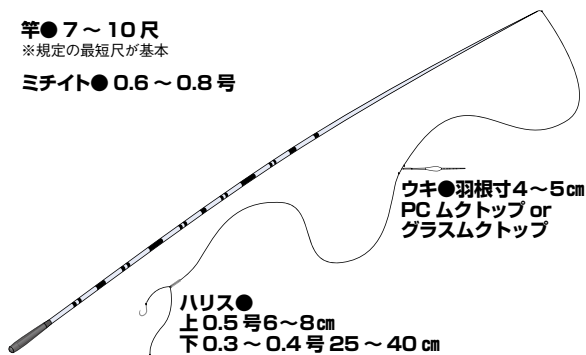


よりも重さのあるウドン類が適しています。  
仕掛けのポイントはやはりウキと下ハリスの長さです。特に持たせ糸と異なる点がないのが特徴で、このことからも釣っている途中でアプローチを変える際、バラケのタッチとエサ付け方法を変更するだけで切り替えられるのが利点です。それでもあえて変えれば、エサ落ち目盛りを深めに取ることでナジませすぎを防止すると良いでしょう。

抜き系

ウドンセットの  
浅ダナ釣り

竿●7～10尺  
※規定の最短尺が基本  
ミチイト●0.6～0.8号



ハリ●上4～5号、下1～2号

●オモリ量 実寸大

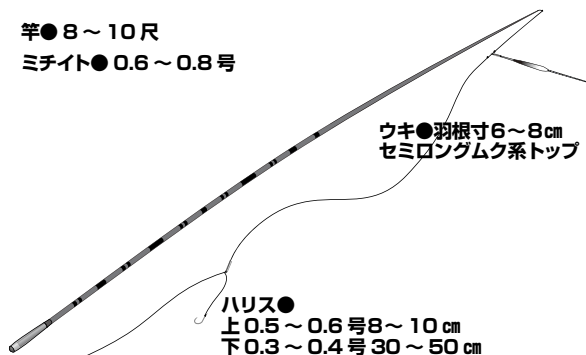
0.25mm厚板オモリ  
8mm×17mm～14mm×17mm



抜き系

ウドンセットの  
チョーチン釣り

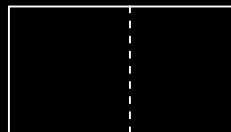
竿●8～10尺  
ミチイト●0.6～0.8号



ハリ●上6～7号、下1～2号

●オモリ量 実寸大

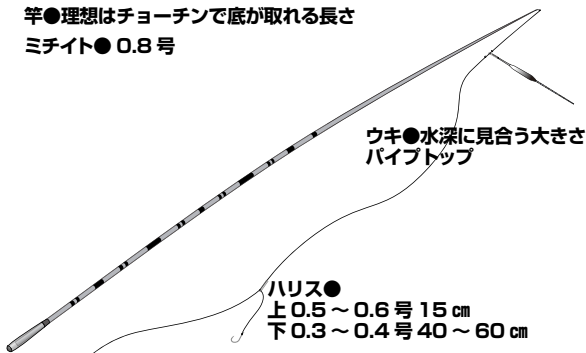
0.25mm厚板オモリ  
17mm×16mm～  
17mm×30mm



抜き系

段差の  
底釣り

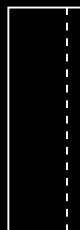
竿●理想はチョーチンで底が取れる長さ  
ミチイト●0.8号



ハリ●上6～7号、下2～4号

●オモリ量 実寸大

※12～16尺目安  
「絡み止めスイッチシンカー」  
0.8g + 0.25mm厚板オモリ8  
mm×30mm～0.25mm厚板オモ  
リ10mm×30mm

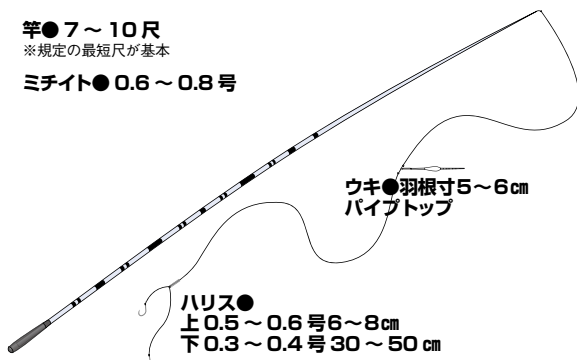


# 釣り方別仕掛け図 & 実寸大オモリ量

持たせ系

ウドンセットの  
浅ダナ釣り

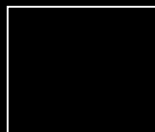
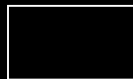
竿●7～10尺  
※規定の最短尺が基本  
ミチイト●0.6～0.8号



ハリ●上5～6号、下2～3号

●オモリ量 実寸大

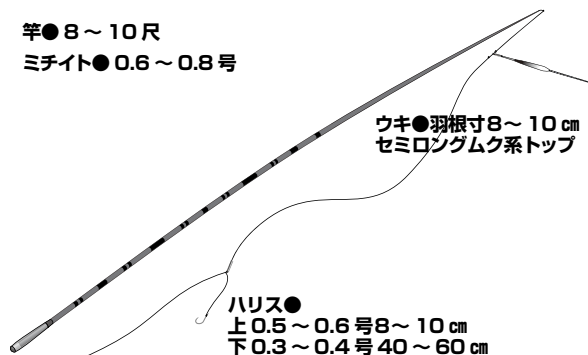
0.25mm厚板オモリ  
10mm×17mm～  
17mm×20mm



持たせ系

ウドンセットの  
チョーチン釣り

竿●8～10尺  
ミチイト●0.6～0.8号



ハリ●上7～8号、下2～3号

●オモリ量 実寸大

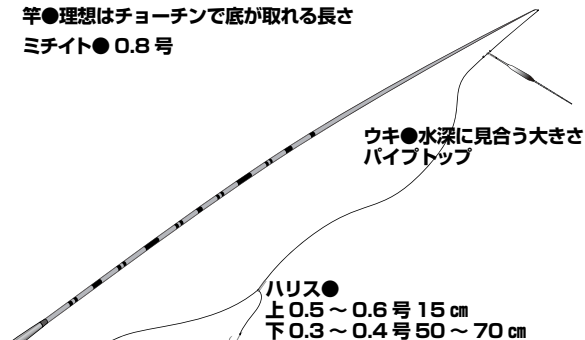
0.25mm厚板オモリ  
17mm×20mm～  
17mm×32mm



持たせ系

段差の  
底釣り

竿●理想はチョーチンで底が取れる長さ  
ミチイト●0.8号



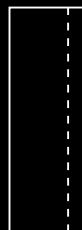
ハリ●上7～8号、下2～3号

●オモリ量 実寸大

※12～16尺目安  
「絡み止めスイッチシンカー」  
0.8g + 0.25mm厚板オモリ 8  
mm×30mm～0.25mm厚板オモ  
リ 10mm×30mm



+











# 一投目から 完璧に。

「粒戦」、「とろスイミー」、「セットガン」に加える究極の1品。  
粒系バラケを意のままに操るブレンドエサ、「セットアップ」。

丸マルキュー株式会社

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4 TEL.048-728-0909  
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

マルキューへら鮎メールマガジンも、お申込はこちらから。 <http://www.marukyu.com/herabunatengoku/>

釣れるヒント満載!!  
へら鮎天国

